

数字で見る普天間飛行場

普天間飛行場の面積

4.758km² (東京ドーム約100個分)



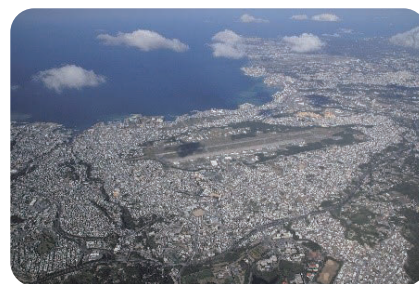
普天間飛行場は、まちの中心部に位置し、市面積（約19.8km²）の約24.0%を占めています。また、市の北側にあるキャンプ瑞慶覧の面積（約1.062km²）も合わせると市面積の約29.4%が米軍施設によって占められています。

宜野湾市の人口密度 (令和8 (2026) 年1月末現在)

5,063人/km²

基地の面積を除いた場合

7,171人/km²



基地を除いた宜野湾市の人口密度は、東京都（6,403人/km²）や大阪府（4,638人/km²）を上回るものとなっています。（東京都・大阪府の人口密度はR2国勢調査より）

普天間飛行場の常駐機 54機



MV-22B オスプレイ 20機



UH-1Y ヴェノム 6機



UC-12W 1機



CH-53E スーパースタリオン 12機



AH-1Z ヴァイパー 12機



UC-35D 3機

所有形態・地主数・従業員数

地主数 4,215人 (令和6 (2024) 年1月末)

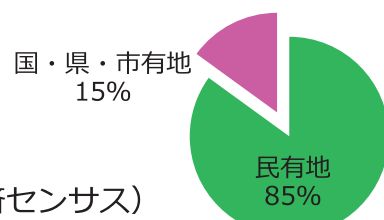
※市内在住者：約2,250人

年間賃借料 約79億1400万円 (令和5 (2023) 年度実績)

日本人従業者数 207人 (令和6 (2024) 年1月末)

※宜野湾市全体の従業者数：34,210人 (令和3年 (2021) 年経済センサス)

所有形態別面積の割合



※全体の約85%が民有地

環境基準超過日数 186日 (令和6 (2024) 年度 上大謝名地区)

環境省が定める環境基準値 (生活環境を保全し、人の健康の保護に資する上で維持されることが望ましい基準) を超えた日数が、令和6 (2024) 年度では**上大謝名地区で186日**を記録しており、昼夜問わず市民生活に深刻な影響を及ぼしています。

年間騒音発生回数

23,231回

 (令和6 (2024) 年度 新城地区)

新城地区では、**1日あたり63.6回**もの騒音が測定されています。基地周辺では、日常的に騒音にさらされた生活を余儀なくされており、住民にとって大きな負担となっています。

令和6年度 最大値 騒音最高値

124.4dB

上大謝名地区
令和7 (2025) 年
2月24日 19時12分

夜間騒音最高値

98.8dB

上大謝名地区
令和6 (2024) 年
6月4日 **22時53分**

これまでの最大値 騒音最高値

124.5dB

上大謝名地区
令和元 (2019) 年
5月16日 18時19分

夜間騒音最高値

101.2dB

上大謝名地区
令和5 (2023) 年
11月1日 **22時49分**

これまでに測定された騒音最高値は124.5dBで、この値は「飛行機のエンジン近く」よりもさらに大きな騒音とされています。また、日米合意で22時以降の飛行は制限されているにもかかわらず、夜間騒音も度々記録されています。

騒音の大きさ	具体例	騒音の大きさ	具体例
120dB	飛行機のエンジン近く	100dB	電車通行時のガード下
110dB	自動車のクラクション (前方2m)	90dB	騒々しい工場内

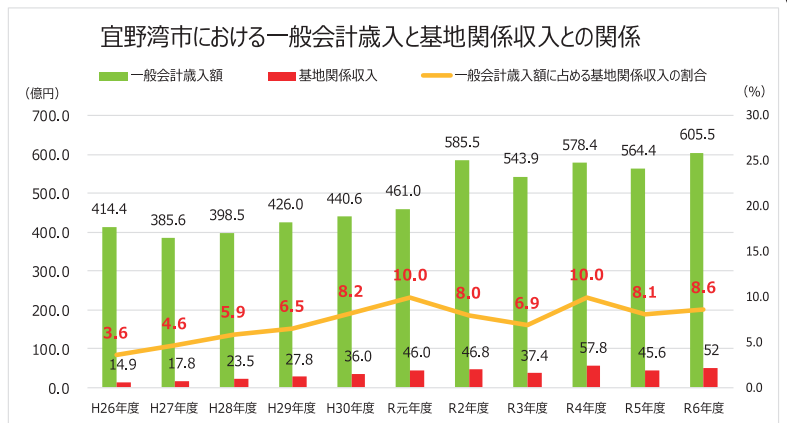
基地と財政

一般会計歳入額に占める基地関係収入の割合

8.6%

※基地関係収入

基地があることで生じる諸費用や返還地の整備等に係る諸経費について、国から交付される交付金、補助金を計上したものです。



キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地 (平成27 (2015) 年3月返還) や普天間飛行場東側部分 (平成29 (2017) 年7月返還) の返還に伴う事業費の増加等により、近年基地関係収入が増加していますが、まちの中心部に基地があることによって都市計画や道路、水道等のインフラ整備に影響を及ぼすなど、市の経済発展を阻害する要因となっています。